

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2019年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2020年 4 月 27 日 提出

1. 研究課題名	
「京都の活動写真製作及び興行における横田商会の意義」 (英文課題名: The Significance Of Yokota Shokai In Film Production And Movie Screening From New Materials)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
長谷 憲一郎(はせけんいちろう)	関西大学社会学部・非常勤講師
3. 研究分担者 (合計: 0名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>常設館がなかった日本映画草創期に映画の導入から普及、発展まで最も寄与した一人である京都の実業家、横田永之助が兄の万寿之助と立ち上げた映画会社の横田商会が 10 を超える巡業隊を組み、全国を回り、映画興行を行ったことや横田が見出した映画の父、牧野省三が、映画最初のスター、尾上松之助と 164 本もの映画を撮ったという功績はよく知られている。実は、京都をベースに明治末期に活動していた映画会社、横田商会についてその実態は、詳細はわかっていない。横田商会の資料(紙媒体、写真、映画フィルム)の調査・発掘・研究を昨年から行っており、今年、その調査・研究を形としてまとめて、後世に残していけるようにすることを、資料をお預かりしている身として、責務だと考えている。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>本プロジェクトは 2019 年度から開始した。これまでに横田家に保管されていた大量の横田永之助遺品資料やその他にも、調査の過程で新たに記録動画フィルムや写真などを発掘し、資料整理をして、仕分けをし、特に重要と思われるものから順にデジタル化を実施した。</p> <p>高齢のご子息が重い病気を患っているため、存命のうちに資料のデジタル化及び国立映画アーカイブへの寄贈を強く望んでおられる。そのため、できる限り早急にデジタル化を完了するべく、コーディネーターのサポートを得ながら、これまで手付かずだった大量の資料をデジタル化することができた。また、それらの資料のデジタル化作業と並行しながら、資料に関してご子息に聞き取り調査などを進めることができた。そのなかでも、これらの資料を元に、日本映画史に大きく貢献した、横田永之助が舵を切った日活のトーキー化の研究に取り組み、論文(査読あり)発表には至らなかったものの、研究を十分に進めることができた。</p>

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

・該当なし

(2) 論文

・『横田永之助トーキーテスト』(1932年)フィルム発見について報告」、単著、2019年4、日本映画学会学会誌、第14回大会(大阪大学)プロシーディングス、5-15頁、査読なし

(3) 研究発表等

・研究発表『京都映画産業の礎を築いた二人、稲畑勝太郎と横田永之助』前編「新資料発見！稲畑勝太郎のリュミエール兄弟宛て書簡(1897年)4通発見について」、一般社団法人京都映画芸術文化研究所(おもちゃ映画ミュージアム)、2019年6月

・研究発表『京都映画産業の礎を築いた二人、稲畑勝太郎と横田永之助』後編「横田永之助の16mmフィルム、35mmフィルムについて」、一般社団法人京都映画芸術文化研究所(おもちゃ映画ミュージアム)、2019年6月

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

・該当なし

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

・立誠小学校開校150周年記念講演「ここから映画がはじまった」

「日本映画発祥の地」と称される立誠小学校跡地で開校150周年記念講演を行なった

(6) 受賞学術賞

・該当なし

(7) 科学研究費助成事業

・該当なし

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

・該当なし

(9) その他